

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 5月19日更新

事務事業名		献血の推進事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	澤田 勝矢
	施策	5 健康づくりの推進				所属課	健康づくり推進課	担当者名	中山 和樹
	施策の柱	20 病気の早期発見				所属班	国保年金班	(内線)	2138
予算科目		会計一般	款4	項1	目1	事業連番10374	根拠法令	安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律第5条 成果優先度評価結果：⑧ コスト削減優先度評価結果：⑥	
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	献血の実施(熊本県赤十字血液センター採血車)及び啓発広報 ・昭和39年の「献血の推進について」の閣議決定以来、国、県、市町村、日本赤十字社、地域、職域団体、献血推進ボランティア活動の取り組みなど、多くの国民に支えられてきた。 ・平成15年7月に「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が施行され、県及び関係機関との連携により、献血への地域住民の理解を深めるとともに、採血事業者(日赤血液センター)による献血の受入れが円滑に行われるよう推進する。
【業務の流れ】	・献血の啓発：広報・ホームページによる啓発と献血のお知らせ ・市役所での献血の実施(年間5回)
【主な予算費目】	04衛生費 01保健衛生費 01保健衛生総務費 11需用費(消耗品費)
【意見や要望】	・季節により血液が不足するので協力の呼びかけ。 ・骨髄バンク登録への協力の呼びかけ。 ・10代20代の献血が少ないので献血協力の呼びかけ。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO)		29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
・献血の実施(市役所5回実施) ・啓発活動(広報紙、ホームページへの掲載)		前年度と同じ	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ア:献血車台数(合志市内実施分)	台		
→イ:献血受付者数	人		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民及び地域住民(17歳から69歳男性、18歳から69歳女性)	人	→ア:17歳以上70歳未満男性、18歳以上70歳未満女性の人口	
		→イ:	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
献血ができる。	人	→ア:献血者数	
		→イ:	
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
・この事業は血液の安定供給の確保を図るためのものであり、指標としては献血者数がふさわしい。 ・昨年度までの実績を目標とした。			全体計画
			～ 年度
			0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標	ア台	25.5	25.5	25.5	14.5	25.5	25.5	25.5	25.5	
	イ人	1,432	1,285	1,638	737	1,638	1,638	1,638	1,638	
② 対象指標	ア人	37,962	38,644	37,300	39,091	37,300	37,300	37,300	40,000	
	イ									
③ 成果指標	ア人	1,320	1,194	1,362	690	1,362	1,362	1,362	1,362	
	イ									
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円							
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	0	1	1	1	1	1	0
		延べ業務時間	時間	0	50	20	50	20	20	0
		(B)人件費計	千円	0	185	79	0	79	79	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	185	79	0	79	79	0	

事務事業名	献血の推進事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	---------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（CHECK）

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【理由】 平成27年度の献血者数は1,285人と前年度に比べ147人ほど減少した。合志市は献血に協力的な企業等が多いが、合志市に限らず全国的にも若年者の献血への関心が低いいため若年者への呼びかけが重要と考えられる。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 平成29年度も広報、市ホームページでPRし、昨年の水準を維持していきたい。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 献血は市内各事業所で自主性を持って最大限の努力をされているので、現在市は関与していない。市役所で行う献血は職員の協力で献血者数を伸ばすことは可能だが、体調、服薬、比重、体重制限等で限りがある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ティッシュ1箱は献血を申込まれたが、比重不足その他で献血できなかった方へのお礼の品代であり、最低必要経費と考えている。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 献血に対して市が受持つ最低限の人件費であると考え。また、現在市役所で行っている献血への対応は訪問看護師が行っているが、献血にインフォームドコンセントが導入されたため、一般のボランティア等には依頼できない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・献血会場については、地域住民が集まるところや従業員の協力が できる事業所で実施されている。 ・市役所での献血日時は広報に掲載している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」により自治体に義務づけてある。

3 評価結果の総括（CHECK）

今後も日赤血液センターと連携し啓発及び協力依頼に努め献血者の増加に努めたい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策